

稲城市矢野口: 矢野口は谷戸の口が転じたとの説。また正月の祭りに天神山の頂上から矢を放ったので矢の口、矢が落ちた先が府中市の矢崎町の伝説も。

【妙覚寺】 (雲騰山 臨濟宗)

足利義晴候の開山で鎌倉建長寺の末寺として建立されたと伝えられる。市指定文化財の筆塚(嘉永7年) 板碑がある。(板碑は阿弥陀三尊の種子で享徳3年(1454)の秋彼岸の中日に道秀という人物が逆修供養のために建てたことが刻まれている)。

【ありがた山】

中腹の墓碑や石仏は、ある宗教団体が昭和15年(1940)~18年頃に駒込付近の寺院にあった無縁仏を集めてきたものだという。僧侶が、それらを荷車に積んでここまで運び、1つずつ担ぎ上げながら「ありがたや、ありがたや」と唱えながらと言われる。

【断崖絶壁】

京王よみうりランド駅と稲城駅間の南側に連なる台地に、北側が過去に砂利採取で削られた為に切り立った崖があり、別名グラウンドキャニオンと呼ばれている。

【妙見寺】 (天台宗 神王山) **【妙見尊】**

『妙見寺記録』によると、妙見宮の別当であった修験者東光院から、延宝5年(1677)に観音院にかわったことが記され、『寺院明細帳』には宝永年中に観音院を寺格に引き直して妙見寺としたとある。このように妙見尊との神仏混交の形が今日残る。(神仏混交:日本固有の神の信仰と外来の仏教信仰とを融和、調和すること。) 「妙見尊」の名は北極星や北斗七星を祀る北辰妙見信仰に由来。

稲城: 地名の語源は「日本古語辞典」によればイナ(稲)キ(処)で、稲の置き場の意。「国史大辞典」には、稲城は稲穂か籾を積み上げて作った城という。